

KONAN UNIVERSITY

## 研究活動報告 園芸療法活動報告

著者	渡里 千賀
雑誌名	心の危機と臨床の知
巻	20
ページ	78-81
発行年	2019-03-20
URL	<a href="http://doi.org/10.14990/00003322">http://doi.org/10.14990/00003322</a>

## 園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。本年度は、グループ向けの園芸プログラムを中心に報告する。

今年は昨年に引き続き、園芸療法に造詣の深い専任カウンセラーの青木の指導のもと、園芸療法スペースの畑の改良と整備を行った（写真①）。昨秋イモ類の収穫の後、冬野菜を栽培したのだが、日照不足、寒さ、鳥害のトリプルパンチで、ブロッコリー等が少量穫れたのみであった。そこで、各々の畑を深く



写真① 野菜ごとに畑を区分け

まで耕し、木の根や石を拾い出した。相当大きな石、煉瓦、ビニールシートの欠片など、様々なものが出てきた。どうやら、阪神淡路大震災の被害の後、上っ面を均して、その上二〇〜三〇cm分の表土を加えたようだ。そして、北側の物置前のスペースに、出土した煉瓦を並べて沼を作り、パ

ピルスを植えた。これは住吉川に自生していたパピルスを、昨年九〇ℓのバケツに水を張り育てたもので、より茎の太く育てようと試みて植え替えた。

三月中頃にジャガイモ（男爵）二〇個を植え付け、四月中頃にズッキーニ、ピーマン類、ナス類、トマト類を植えた。昨年の野菜の成長の経過観察から、土壌の質が相当悪いことが判明したので、今回の夏野菜はすべて接木苗を使用した。四月後半に九条ネギの苗を三〇本植えた。

五月に入って、今まで畑として使用していなかった北側の土地を整地し、水（沼）に近い方にサトイモを植えた。新しい試みとして、南側半分のスペースに、メキシコの伝統農法をまねて実施してみた。この農法は、トウモロコシを蒔き、豆のつるをトウモロコシにからませ、カボチャをさらに蒔いて、地面を覆わせ、夏の強い日差しと乾燥から大地と作物を守るといいうものである。しかしながら、トウモロコシが十分に育つてから、豆を蒔くべきだったようで蒔くタイミングが早すぎたようだ。そのため、支柱で豆の育つスペースを作るようにした。また、トウモロコシもオリジナルのものではなく、新しい品種のスイートコーンを植えたので、背丈が思ったほど高くなかったのだ。収穫したカボチャの育ち具合は十分とは言えない状態だった。スペースも十分ではなかったことも原因だと考えられる。本当は相当広いスペースで行うものなのだろう。元来メキシコ



写真② 大きくなったパピルス



写真③ 切ったパピルスの葉

の伝統農業では、自給自足で一年分の家族が食べるトウモロコシ、豆、カボチャを確保するものだから。

次にグループ活動について報告する。学生相談室では、毎週金曜日の午後に、学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループを開催しており、その中で季節に合わせて園芸療法プログラムを導入している。今年は、前・後期合わせて計五回実施した。内容は、サツマイモの苗植えとプランターでの野菜作り（五月）、サツマイモ・サトイモの収穫と試食（一〇月・十一月）、クリスマスアレンジメント（十二月）である。また、畑で収穫した夏野菜を使って、六月の『手作り窯でピザを焼こう』と七月の『自家製野菜でパスタ』という調理プログラムを実施した。一〇月に沼で育てたパピルスを使い、『パピルス紙作り』に挑戦した（写真②③）。

五月の『春のガーデニング』は二日間実施した。五月一八日



写真④ プランターでの野菜作り

に、学生相談室屋上の園芸療法スペースの畑にサツマイモの苗を植えた。作業後、青木からイモ類をテーマにしたプチ講義があり、参加者は楽しそうに聴いていた。五月二五日に、一週間前に植えたサツマイモの苗の成長を観察した後、ジャガイモを収穫した。

その後、皆でトマトの苗を購

入しに近くのホームセンターへ出かけ、一八号館入口の駐車場に設置したプランターに苗を植えた（写真④）。今年も、トマトの苗を、通常のもの、ミニトマト、値段の高い『サントリール大王（濃い味）』など数種類購入し、成長や味の違いを観察することにした。買い物と園芸を授業時間内にこなすハードなスケジュールであったが、二週続けて参加した学生は、かなり作業に慣れ、細かく指示をしなくても自主的に動き、初めて参加した学生を引っ張っていく頼もしい姿が見られるようになった。

六月八日に畑で収穫したナス、ズッキーニ、パプリカ、ルッコラ、青ジソ、ルッコラ、パセリ、ネギをピザの具に使い、おいしく頂いた。また、七月二〇日に収穫したトマト、キュウリ、ナス、インゲン、イタリアンパセリ、シソをパスタの具に使用

した(写真⑤)。参加したのは全員男子学生で、料理の経験がほとんどないため、野菜を切る時に戸惑いを見せた人もいたが、スタッフから簡単な切り方を教えてもらい、実践でき自信がついたようだった。「スムーズに作業ができるようになってよかった」と感想を述べていた。

一〇月二六日に『サツマイモ掘り』を行った。今年は大豊作で、一つ一つのサイズがとても大きかった。一番重いものは、一二五〇g、長いものは三五cmもあった(写真⑥)。十一月九日に『お芋でクッキング』で、サツマイモ餡のお饅頭を作った。普段料理の機会のない女子学生が中心となって、意欲的に楽しそうに料理していた。十一月三〇日にはサトイモを使って「芋煮」を作った。今年は醤油ベースの山形風芋煮と味噌ベースの



写真⑤ 夏野菜パスタ



写真⑥ サツマイモ今年は豊作



写真⑦ 大きいサトイモの葉

仙台風芋煮を作り、試食した。対人関係に不慣れであったり、苦手意識を持つ学生同士が、園芸や調理と一緒にを行うことで、お互いの対人距離を近くしていく様子も見られ、グループとして有意義な時間を過ごすことができたと思う。(写真⑦)。

今後の予定としては、Reアワーにて二月には、バラやカーネーション、モミ、黄金ヒバなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを製作する予定である。アレンジメントは個人の作品に加え、一人一本ずつ花を選び、順番にオアシスにさしていく共同アレンジメントの制作も計画している。また、園芸に興味を持つ学生達とシクラメンやサクラソウ、パンジーなど冬の草花の寄せ植えを作るつもりになっている。

昨年から引き続き、今年も園芸の専門家である青木を中心に

園芸療法スペースの畑の改良がなされて、サツマイモ以外にも一年中何某の野菜の栽培が行われ、旬の時期に旬の野菜が収穫できるようになった。Reアワーで野菜を使った料理や工作のプログラムを増やすことができて、本当によかったと思う。命ある植物を扱う難しさを伴うが、今後も自然

に触れ合い、また食育する機会を提供する場として、学生相談室という限られた場でできる工夫を模索しながら、園芸療法プログラムを実施していきたい。

(渡里 千賀)